

# ウズベキスタン共和国概要

2026年6月  
(一社)ROTOBO

## 1. 基本情報

- (1) 地勢：旧ソ連中央アジアの中央部に位置し、東西南北いずれの方向でも、最低2カ国を通過しなければ海に至らない二重陸封国。北部および西部国境をカザフスタン、南をトルクメニスタンとアフガニスタン、東をタジキスタン、キルギスと国境を接する。
- (2) 面積：44万8,900km<sup>2</sup>（日本の約1.2倍）
- (3) 人口：3,824万人（2026年初）\*
- (4) 首都：タシケント市（318万人/2026年初）\*
- (5) 主要都市\*\*：ナマンガン市（70万人）、サマルカンド市（59万人）、アンディジャン市（49万人）、ヌクス市（34万人）、フェルガナ市（32万人）、コーカンド市（31万人）、カルシ市（30万）、プハラ市（29万人）（2024年）
- (6) 民族\*：ウズベク人 84.4%、タジク人 4.9%、カザフ人 2.4%、カラカルパク人 2.2%、ロシア人 2.1%、その他 4.1%（2021年初）
- (7) 言語：公用語はウズベク語。またロシア語も広範に使用される。
- (8) 宗教：イスラム教（主にスンニ派）



◆データ出所：\*ウズベキスタン統計国家委員会。/\*\*国連統計部（UN Data）。コーカンドは都市圏人口を含む。

## 2. 政治情勢

### (1) 略史

ロシア革命後の1924年にソ連中央が行った中央アジア民族境界画定により、ほぼ現在の国境線のもとでウズベク・ソヴィエト社会主義共和国が設立された。1980年代後半に始まるソ連解体の過程の中で1990年6月共和国主権宣言、1991年8月31日独立宣言、国名を現行のものに改める。1991年末のソ連崩壊を経て実質的な独立国に。

### (2) 独立後

1990年12月の大統領選挙で初代大統領に選出されたイスラム・カリモフ元ウズベク共和国共産党中央委員会第一書記が、その後25年にわたり、強力な指導力のもとで国を率いた。カリモフ大統領が掲げた「漸進改革政策」により、ウズベキスタンは社会主義体制及び計画経済からの急激な移行に伴う混乱を回避し、1990年代には政治・経済両面で旧ソ連諸国の中では例外的な安定を維持した。しかし、2000年代に入ると、改革開放や市場経済化の遅れによる弊害が次第に顕在化するようになる。

2016年9月、カリモフ大統領の急逝を受けて同年12月に大統領選挙が実施され、それまで10年以上にわたり首相を務めていたシャフカト・ミルジヨエフが第二代大統領に選出された。ミルジヨエフ大統領は、政治・経済・社会全般にわたる改革路線を打ち出し、とりわけ対外政策を大きく転換した。外交面では、従来対立的であった周辺中央アジア諸国や西

側諸国との関係改善を進め、経済面では為替交換自由化をはじめとする本格的市場化・開放路線をとった。同大統領が進める改革の下で、近年のウズベキスタン経済は、外国直接投資（FDI）流入額が毎年過去最高を更新するなど、順調な発展を遂げている。

### （3）大統領

シャフカト・ミルジヨエフ大統領（MIRZIYOYEV, Shavkat Miromonovich）：

1957年7月生。1981年タシケント灌漑・エンジニアリング・農業大学卒業。同大学の教員、学部長、副学長等を経て、1990～2004年共和国最高会議代議員。並行してジザク州知事、サマルカンド州知事等を務める。2003年12月～2016年12月首相。2016年12月の大統領選挙で第二代大統領に選出される。2021年10月再選。2023年4月、国民投票により憲法を改正し、大統領任期を5年から7年に延長、さらに前倒しで同年7月に実施した大統領選挙で事実上の三選を果たした。憲法改正により選出回数はリセットされるため、同氏は直近の選出時から最大2期14年にわたり大統領を務めることが可能。

## 3. 経済状況

### （1）経済水準

（イ）GDP（2025年推計）：1,170.7億ドル\*

（ロ）国民1人当たりGDP（2025年推計）：3,850ドル\*

（ハ）1人あたり平均月額給与（2025年）：638万スム\*\*（約507ドル\*\*\*）

### （2）主要産業・輸出品

（イ）主要産業：資源採掘（金、銅、ウラン、天然ガス）、自動車・機械、繊維、食料加工、観光・サービス

（ロ）主要輸出品：金、サービス、化学品、食品、繊維製品、非鉄金属

（ハ）主要輸入品：機械・輸送機器、化学品、鉄・鉄鋼製品、食品、石油・天然ガス

### （3）経済指標\*\*

（対前年比増減率、%）

	2021	2022	2023	2024	2025	2026 第1四半期
国内総生産（GDP）	8.2	6.1	6.3	6.7	7.7	8.7
鉱工業生産	8.8	5.3	6.3	6.5	6.8	8.0
農林水産業生産	4.0	3.6	4.1	3.1	4.4	5.1
固定資本投資	2.9	0.2	23.4	31.3	10.5	29.6
商品小売販売高	17.0	10.8	10.5	11.7	11.2	25.4
インフレ率（消費者物価指数）****	10.0	12.3	8.8	9.8	7.3	1.9

◆データ出所：\*IMF, World Economic Outlook Database. /\*\*ウズベキスタン国家統計委員会。/\*\*ドル換算はウズベキスタン中央銀行データより算出した年平均対ドルレートから換算。/\*\*\*\*期末の対前年12月比。

## 4. 対外関係

### （1）貿易\*

#### （イ）貿易額

輸出：（2025年）338.1億ドル /（2024年）：272.7億ドル

輸入：（2025年）473.5億ドル /（2024年）：399.7億ドル

(ロ) 主要貿易相手国

輸出(2025年)：①ロシア(12.8%)、②中国(7.3%)、③カザフ(4.6%)

輸入(2025年)：①中国(31.2%)、②ロシア(18.2%)、③カザフ(7.2%)

(注) 上記貿易データには、サービスが含まれる。

(2) 日本との関係

(イ) 概要\*

日本とウズベキスタンの関係は、民主化・市場経済化をめぐり他の西側諸国との関係が対立的様相を帯びがちであったカリモフ前政権時代から、一貫して良好であった。こうした関係を背景に、日本は同国向け経済支援で大きな存在感を示しており、2023年度までの日本の累計援助額は、円借款約5,650億、無償資金協力約303億円、技術協力実績約225億円に及ぶ(技術協力を除き交換公文ベース)など、主要ドナーの中で常に上位を占めてきた。一方、貿易・投資等、ビジネス面での存在感は限定的であり、日本はウズベキスタンの2025年の輸出入相手国順位でも上位10か国に入っていない。

(ロ) 日本との貿易\*\*

日本の輸出(2025年)：3億8,562万ドル(原動機、自動車、電気機器等)

日本の輸入(2025年)：3,505万ドル(再輸入品、野菜、肥料等)

(ハ) 二国間条約\*\*\*

2004年8月 日・ウズベキスタン航空協定発効

2006年6月 日・ウズベキスタン技術協力協定発効

2009年9月 日・ウズベキスタン投資協定発効

2019年12月 日・ウズベキスタン税関相互支援協定発効

2020年10月 日・ウズベキスタン租税条約発効

(ニ) 在留邦人数(2025年10月現在)\*\*\*：216人

(ホ) 在日当該国人数(2025年6月現在)\*\*\*\*：7,261人

◆データ出所：\*経済支援データは『ODA国別データ集2024』より。/ \*\*日本国財務省貿易統計をもとにドル換算/\*\*\*日本国外務省。/\*\*\*\*日本国外務省ウェブサイトより、原出所同法務省。

(了)